

NO. 21	発行日 : 2014年2月1日	連絡先 國分富夫(会長) 住所 〒965-0013 会津若松市堤町6-12 電話 090(2364)3613 メール kokubunpi-su@hotmail.co.jp 事務局 鈴木宏孝 090-2909-6133(浪江) 坂上義博 090-1067-7265(大熊) 板倉好幸 090-9534-5657(南相馬)
<p style="color: red; font-size: 2em;">原発事故被害者</p> <h1 style="font-size: 4em;">相双の会</h1>		

避難者訴訟第3回口頭弁論に向けて

2月12日に原発避難者訴訟第3回口頭弁論が福島地裁いわき支部で開催されます。今回は、「相双の会」から國分富夫会長と管野美智子の2名が、原告として意見を述べます。二人の、裁判への決意を紹介します。

裁判に臨む私たちの決意

私たちは好きで裁判所へ提訴したわけではない。

余りにも東電、国の、われわれ被害者への対応が悪いからです。

まもなく、事故から三年になります、それでも生活再建ができないままです。他人の財産、精神的な事への被害をあたえた場合、全面的な弁償と謝罪するのが社会の常識であろうと思います。

南相馬市の場合、津波による死亡者よりも原発事故の関連死が多いと聞きます。これからも20年続くのか、30年続くのか分かりません。

収束もしていないのに「収束宣言」をする総理大臣。高濃度の放射能汚染水がタンクから漏れている事が発覚、その後次から次と漏れ、後手後手の状態です。つい先日はとうとう原子炉

からの水漏れが、ロボットカメラで発覚しました。人間がその場に居たとしたら即死されている線量です。事故後も3年近く放射能は放出されっぱなしの状態であることは明らかです。

県民の多くは、地震が来たら恐怖です。いつでも避難できるようにガソリンは満タンにしています。

事故を起こした原発の廃炉作業は危険であり、近隣市町村は常に危険を背にしているようなものです。東電の社員、特に若い社員が早期退職、原発に働く下請け労働者もベテランが退職してしまい労働力不足となっています。そのために単純事故が多いとマスコミ等が報じています。

対策として東電は危険手当を一日一万円から二万円としたと伝えられます。それでも労働者が集まらない。何故でしょう。命まで売りたくないということだとおもいます。それでも生活を支えるために原発で働かなければならない人もいるのです。

原発に働く労働条件、被曝を考えると非常に心配です。しかし、誰かがやらなければ廃炉に繋がって行きません。「大変ご苦労様」と頭の下

がる思いです。

このように住民も労働者も生命と健康を削り取るような日々を送ってきたのです。さらにこの辛さはまだまだ続くのです。

なのに、賠償も精神的慰謝料も、地域の勝手な線引きや東電側の一方的な基準で切り下げたり打ち切ったりするのは、許せません。二度と福島のような大惨事を起こさせない事を国（特に自民党）と東電は目覚めることであり、責任

を取るべきです。

裁判闘争で原発の弊害を明らかにして、被害者の生活再建と脱原発のうねりをつくりたいと思います。

脱原発は日本を守る事であり、世界にこの現状を訴える事がもっとも重要と考えます。

管野美智子 国分富夫

避難者訴訟第3回の口頭弁論 2014年2月12日

日程	2月12日(水)
前段集会	12時30～ いわき市飯野八幡宮
裁判傍聴	14時～ 福島地裁いわき支部
報告集会	15時30～16時30 いわき市飯野八幡宮
会場所在地	飯野八幡宮 いわき市平字八幡小路 84 0246-21-2444 福島地裁いわき支部 いわき市平字八幡小路 41 0246-22-1321

「相双の会」の皆様へ—皆さんのお役にたてれば

京都大学助教 今中哲二

*今中哲二先生は、小出裕章先生の同僚として原発の危険性を明らかにしてきました。今中先生は、原発事故が起きてから素早く研究者を集め「飯舘村放射能エコロジー研究会」を立ち上げ、「相双の会」としてもお世話になり教えを受けてきたところです。

地震・津波、原発事故から3回目のお正月を迎えられ、いまだに避難生活を送っておられる

被害者の皆様のご苦勞は私には察するに余りあるものと思っています。同時に、先行きの不透明な現状におかれている方々に対して、正直なところ、私には申し上げるコトバが見つかりません。

汚染情報がなぜ流されなかったのか

3年前、原発事故が起きたとき私には理解できないことがたくさんありました。そのひとつ

は、原発周辺での放射能汚染についての情報がほとんど発表されなかったことでした。3月11日の地震のあと津波によって非常電源が水没して全部の電源が使えなくなり、結局福島原発の1号機から3号機まで3つの原子炉が炉心溶融を起こしました。1号機が水素爆発を起こした3月12日の夕方には周辺20kmの人々に避難指示が出され約7万人の人々が緊急避難するという未曾有の事態に至りました。原発周辺で大変な放射能汚染が起きていることは確かなのに、不思議なことに放射能汚染の情報が全くといっていいほど出てきませんでした。

チェルノブイリを訪れて

私は、原子力の専門家として20年以上にわたってチェルノブイリ事故について調べて来ました。原発をどんどん増やしている日本の現状を考えると、原子炉に大量に蓄積された放射能が遮るものなく環境に放出されるという最悪の事態が発生したときに、どのようなことになるかチェルノブイリの実例をキチンと調べておく必要があると思ったからです。

チェルノブイリの調査を通じて私が学んだ最大の教訓は、『原発事故が起きると、突然に周辺の人々が家を追われ、地域が丸ごと消滅してしまう』ということでした。チェルノブイリ原発の周りは事故から28年になろうとする現在も30～60kmにわたって立入禁止区域となっています。その面積は3700平方kmと東京都約1.8倍です。事故から3年経って明らかになった高汚染地域から移住した人を含めると、自分の家に住めなくなった人は40万人を越えています。

何のためのスピーディー？

福島原発事故が起きて“スピーディー”のデータが全く発表されないのも不可解でした。スピーディーは20年以上前から莫大な資金と時間

をかけて開発された計算機予測システムで、事故が起きたら即座に放射能汚染が及ぶ地域を推測し避難に役立てるはずのものでした。私ははっきり、地震で計算機システムがつぶれたのかと思っておりましたが、実はつぶれたのは運用する人間のシステムの方で、原発事故の混乱の中で原子力防災計画が全く役に立たなくなっていたのでした。

「避けられた被曝」

汚染データが出てこないの“自分たちで測定しておかなくて”ということで仲間と一緒に飯舘村の放射能汚染調査に出かけたのが2011年3月28日のことでした。飯舘村に到着してみると村全体が大変な汚染でした。本来なら速やかに避難すべきところに村の人々が普通の生活を続けているのをみて私たちは唖然とするばかりでした。飯舘村のように後になって計画的避難区域に指定されたところに住んでいた人々は、“避けられた被曝”を受けたこととなります。

これからも福島に通います

福島の事故が起きて、私のやっていることの意味合いが全く変わってしまいました。それまでは、『日本でもチェルノブイリのような事故が起きる可能性があるぞ』と言っていけばよかったのですが、それが現実となってしまいました。それからは、『福島の放射能汚染やみなさんの被曝がどうなっているのか』を調べ続けることが私の仕事になってしまいました。放射能汚染の主役が半減期30年というセシウム137であることを考えると、私の世代でケリがつく仕事ではありませんが、これからも福島通いが続くことになると思っています。私どものやっていることが、どんな形で福島の皆様のお役にたてるか分かりませんが、今後もよろしくお願ひします。

山形の支援者からの便り—学んで生きる

手打ちそば屋 辻 春男

1月20日、故立松和平氏の「道元禅師」を読み終え、その中に「魚は水のことをよく知り、鳥は空のことをよく知り、人は一体何を知っているのか」とありました。また映画『標的の村』を観ました。19日、名護市長選挙で稲嶺氏が再選されほっとしましたが、この映画からあまりにも情けなく悲しい日本の現実を知らされるのです。法律は誰のため何のためにあるのかです。

さて自分は山形でそば屋を営んでいます。そばは全世界的作物ですが、もりそばのような食べ方は日本しかなく、何よりもきれいな水が必要です。その水は温暖な気候と豊かな森林資源から得られると、2011年3月の震災と原発事故後、つくづく実感しております。去年は、仲間5人で下北半島最北端の大間の「あさこはうす」を訪問しました。むつ市に建設中の中間貯蔵施設、東通原発、そして驚愕(きょうがく)したのはいかにも原発交付金絡みの人工的な街並みです。また2兆円超す建設費を投じた六ヶ所村再処理工場は、のどかな風光明媚な所で何をしているのか？それは経済成長・発展のための科学のあくなき追求なのでしょうか？

知れば知るほど、この国のあまりにも深い闇がちらつきます。やっと54歳頃から社会に目が向かうようになり、中国への旅のあと、「豊かさとは何か」と考える毎を送り読書三昧の生活となり今に至ります。ある機会を得て水俣への旅が実現しました。坂本しのぶさん他多くの水俣病被害者の方々の顔が思い出されます。患者さんに寄り添い続けてきた故原田正純先生は「水俣病の大なる原因は人を人としてあつかわないことにある」と「貧困と差別のある所に公害が発生する」とおっしゃいます。意識的に差別・格差を助長し差別が偏見

を作り出し、そして支配に至るしくみであることを学ばねばなりません。

2014年1月8日、小出裕章氏「なぜ原発が不要なのか」の講演会に参加し、彼のひたむきな姿勢を拝見し感激です。暮れには講師神田香織さんの「はだしのゲン」も聞くことができました。「あきらめることをあきらめる決意を」と、むのたけじさんは98歳の今、秋田の横手で我々若造に申します。たんにエネルギーや電気の問題ではないのです。原発依存社会が整えられ、福島原発事件を体験してもなお再稼働しようとする日本社会を変えねばなりません。それが、3年前の震災と原発事故を体験した者の責任として、原発いらない、また同じくオスプレイいらないと叫び続けていきたいと思えます。64年間も生きられたことに感謝し、これからも学び続け、生きていきたいと思っています。どうぞよろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

辻春男さんのそば店紹介

辻春男さんは山形市内の老舗の手打ち蕎麦屋さんです。毎週金曜日には山形市内脱原発パレードをしています。「相双の会」には突然手紙を頂き、「相双の会」会報を送って下さいとの依頼でした。封筒の中には切手まで入っていました。山形は原発の無い県ですが、懸命に脱原発をうったえています。頭の下がるおもいです。お店は、山形市に避難している人たちの集まる場ともなっていて、何時も超満員です。食べに行くときは昼の時間をずらしたほうが良いようです。

手打そば羽前屋

山形市旅籠町一丁目18-11

「相双の会」会報にご意見を

是非ご投稿をいただき「声」として会報に載せたいと考えています。匿名でもけっこうです。

電話090(2364)3613 メール(國分) kokubunpi-su@hotmail.co.jp